

猪苗代湖のコハクを観察

— 第 3 回 白鳥研修会 終わる —

昭和 53 年 3 月 18・19 日の両日、コハクチョウの内陸高地渡来地として天然記念物に指定されている福島県猪苗代湖を中心に第三回日本白鳥の会研修会が開かれた。この研修会は北海道ウトナイ湖（第 1 回）青森県小川原湖（第 2 回）と持ち回り、おもにハクチョウ類の識別についての知識を深めるために開催されてきたもの。今回は特別テーマとして「ハクチョウ類の食性について」が取り上げられた。参加者は地元大森常三郎氏（理事）ほか 8 名、全国から 30 余名。

発表者と発表内容も年を重ねるごとに質量ともに充実し、見ごたえ、聞きごたえのあるものになってきた。当日のおもな研究発表をひろくと、①「白鳥の食性について」畠山正光氏（小湊） ②「白鳥のアスペルギルス症の解剖例について」加藤 氏（仙台） ③「茨城県古徳沼のハクチョウ類について」菊地昶史（古徳沼） ④「白鳥の渡来経過と茶屑の給与例について」大森常三郎氏（猪苗代湖）

⑤「佐潟における白鳥の餌について」吉川吉枝氏（新潟） ⑥「阿武隈川の白鳥について」八木博氏（福島）など盛りたくさん。残る時間を年末から年始にかけて、日本白鳥の会のグループが、英国の水禽類と IWRB 本部を訪問したときの 8 ミリ映画（阿部敏夫氏撮影）の鑑賞、「英国視察雑感」志津恒応氏などの話をきき、第一日を終った。

第二日は、猪苗代湖畔の白鳥浜で、地元大森常三郎氏らによるコハクチョウ約 400 羽に対する給餌を観察、撮影するなど盛会のうちに現地解散した。



〔猪苗代湖畔で視察する会員〕

白い鳥 100 羽

2,000 メートルの高空を飛ぶ

水戸市の菊地（会員）氏から「茨城県内の超上空を白鳥らしい白い鳥の群れ 200 羽ほどが西方に飛び去ったのを見た人がある。」という情報をいただいたので、当事務局では観察者の小林長寿氏に対し、発見時のくわしい様子を知りたい旨の手紙を差し上げた。

小林氏からは、折り返し下記のようなご返事と 300 ミリ望遠レンズで撮影した「白い鳥の群れ」の

写真二葉が同封されてきた。

貴重な記録なので、ここに紹介する。

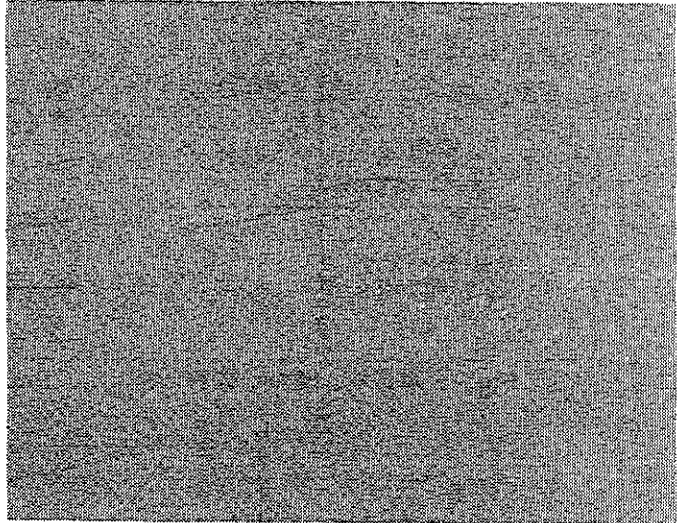
◎小林長寿氏からのお手紙

お尋ねの件ご回答申し上げます。

- ① 観察地名 → 茨城県那珂町戸崎 247 番地。
- ② 観察日時 → 昭和 52 年 12 月 30 日 午後 1 時。
- ③ 飛び去った方向 → 西 方。
- ④ 群れのすがた → カギ状になったり、大きく二つに分かれたり、一つにまとまったりしていた。
- ⑤ 群れの羽数 → 200 羽くらいと見たが、写真では 100 羽くらいだった。
- ⑥ 鳴き声 → 非常に高く聞こえなかった。
- ⑦ 高 度 → 雲の高さから推定して 1,000 メートル～ 2,000 メートルくらいあったと思われる。
- ⑧ 天 候 → 晴れ 西方にわずかに雲があり、風はほとんどなかった。
- ⑨ そ の 他 → 私の記憶にあることは、太陽光線を受けて銀白色であったこと。肉眼では鳥の形がは

っきりしないほど高かったこと。しかし、大型の鳥の飛び方だと思われたことです。

この鳥を見たのは、私の妻と小学生の子供二人の計四人であったことです。双眼鏡で観察すれば、もっと形がはっきりしたのですが、写真を撮ることに心をうばわれて、くわしい観察をのがしたのが残念でした。



[S 52.12.30 午後 1 時
アサヒペンタックス SP 300 mm
で撮影 小林長寿]